

第 700 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時： 2024年9月14日（土）午後2時00分

開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

* 2024 年度より会場開催のみとなります。

* 講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	専門医共通講習（その他：医療経済） 1 単位（ii 貼付用） 学術集会参加単位（iv -B 貼付用）	* 単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要（60 分）



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：水野 克己（昭和大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和大学医学部小児科 担当：阿部 祥英

連絡先：jpestokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://jpeds-tokyo.com/>



第 700 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

〈プログラム係 昭和大学 神谷 太郎〉

一般演題 (1) 14:00 - 14:40 座長 和田 友香 (国立成育医療研究センター病院 新生児科)

1) 難治性喘息からびまん性汎細気管支炎の診断に至った姉妹例

○山根 成章、岩間 元子、杉山 千央、川島 仁美、瀬戸 比呂木、鈴木 潤一、石毛 美夏、
森岡 一朗

(日本大学小児科)

6歳と9歳の姉妹。ともに3歳から気管支喘息の診断で加療されていたが、当科を紹介された際、治療ステップ4の追加治療下でコントロール不良であった。寒冷凝集素価高値、慢性副鼻腔炎の合併、胸部CTで両肺野びまん性小葉中心性粒病変を認め、びまん性汎細気管支炎と診断した。クラリスロマイシン少量長期療法で症状は軽快した。小児ではまれで診断にしばしば難渋するが、難治性喘息の鑑別として本症を疑うことが重要である。

2) 柔道中に耳下腺損傷を来した1例

○関谷 健、島田 麻衣、関 沙和、佐々木 郁哉、山下 恒聖、大川 恵、高木 俊敬、本多 愛子、
岡田 祐樹、水野 克己

(昭和大学医学部小児科学講座)

10歳男児。柔道の投げ技の練習中に相手の拳で右頬部を強打した。30分後に同部位に疼痛、腫脹があり当院を受診した。頭頸部造影CT検査で右頬部血腫、耳下腺腫大を認め、血清アミラーゼ値が高値であったことから、右耳下腺損傷の診断で入院加療した。制唾薬、抗菌薬の投与で腫脹は改善し、1週間後に退院した。耳下腺損傷は鈍的外傷で生じる可能性があり、急速な頬部の腫脹を認めた場合は鑑別にあげる必要がある。

3) 脳室拡大の急速な増悪をきたし生後早期に外科的治療を行った先天性くも膜嚢胞の1例

○川崎 健太、奈良 昇乃助、内多 涼香、中山 俊宏、羽生 直史、西袋 麻里亜、西端 みどり、
山崎 崇志、山中 岳

(東京医科大学病院 小児科・思春期科)

日齢0の新生児。正常頭囲(0.7 SD)で大泉門軟、超音波検査で頭蓋内嚢胞を認めた。日齢2に頭部MRI検査で先天性くも膜嚢胞(Galassi III型)と診断された。経時的に頭囲が拡大し(日齢21、頭囲1.8 SD)、頭部MRI検査で脳室拡大の増悪と正中偏位を認めた。日齢53に専門施設に搬送され、日齢77にくも膜開窓術が施行された。症状のない先天性くも膜嚢胞でも慎重な経過観察と経時的な頭囲測定が必要である。

4) 未受診母体から出生し集中治療を要した先天梅毒の1例

○横田 昂子、長尾 江里菜、小林 亮太、田邊 行敏、小林 正久、大石 公彦

(東京慈恵会医科大学附属病院 小児科)

日齢0の新生児。出生直後から原因不明の著明な肝腫大、点状出血斑、新生児遷延性肺高血圧症(PPHN)、強い炎症反応を呈した。母体が未受診のため先天感染症を疑い、母児ともに梅毒血清反応陽性であることから先天梅毒と診断した。未治療母体から出生した先天梅毒児の40%は死亡する。本症例のように未受診母体から出生した児がPPHNや敗血症症状にて集中治療を要した場合、先天梅毒も鑑別疾患として考慮すべきである。

5) 左眼球運動制限を契機に見つかった左上顎洞原発 Langerhans 細胞組織球症

○土方 美奈子¹⁾、渡部 良平²⁾、若月 良介²⁾、宮本 智史²⁾、星野 顕宏²⁾、神谷 尚宏²⁾、
磯田 健志²⁾、高木 正稔²⁾、朝蔭 孝宏³⁾、金兼 弘和²⁾

(¹⁾ 東京医科歯科大学病院 総合教育研修センター、²⁾ 同 小児科、³⁾ 同 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

1歳4か月女児。左眼球運動制限と左頬部腫脹を主訴に受診し、眼窩内進展を伴う左上顎洞の骨破壊性占拠性病変が指摘された。迅速病理検査での組織球様多核巨細胞および肝腫大から、多臓器型 Langerhans 細胞組織球症 (LCH) が疑われた。不可逆的な視力障害が懸念されたため、病理確定診断を待たずに LCH として治療開始し、寛解導入療法で部分奏効を達成した。迅速かつ適切な治療介入により視機能を温存できた。

○指定発言 塩田 曜子 (国立成育医療研究センター 小児がんセンター)

6) 神経芽腫治療後に二次性骨肉腫を発症した1例

○竹原 英駿、富田 理、藤原 恵、谷口 明德、石橋 武士、藤村 純也、東海林 宏道

(順天堂大学小児科)

11歳女児。3歳時に傍脊柱原発の神経芽腫を発症し、集学的治療により寛解を得たが、治療終了から5年半後に背部痛と下肢の脱力が出現した。精査により放射線照射野である胸椎から発症した二次性骨肉腫と診断し、緊急手術後に化学療法を実施した。二次がんにおいては、一次がんの治療による臓器障害や蓄積性の薬剤毒性のために治療に難渋する場合がある。本症例の経過・転機について文献的考察とともに報告する。

7) 極度の偏食により壊血病をきたした自閉スペクトラム症の1例

○鈴木 彩恵¹⁾、宮田 恵理²⁾、伊藤 甫²⁾、鈴木 絵美子²⁾、田中 寛顕²⁾、日比生 武蔵²⁾
柏木 項介²⁾、武藤 大和²⁾、宮野 洋希²⁾、五十嵐 鮎子²⁾、鈴木 恭子²⁾、大友 義之²⁾

(¹⁾ 順天堂大学医学部附属練馬病院 臨床研修センター、²⁾ 同 小児科)

3歳男児。3歳で自閉スペクトラム症 (ASD) と診断され、その前後から特定の清涼飲料水しか摂取しなくなった。1週間持続する左膝関節腫脹と歩行障害のため3歳7か月で当院へ紹介された。膝関節 MRI 検査で両側大腿骨膜下出血像を認め、血清ビタミンC値が低値で壊血病と診断した。ビタミンC補充により経時的に症状は改善したが、経口摂取が困難で経管栄養を導入した。ASD 児の偏食はしばしば栄養障害を引き起こす。

8) 起立性調節障害として紹介された慢性疲労症候群の1例

○有井 凜子^{1) 3)}、飯島 弘之¹⁾、小椋 雅夫²⁾、窪田 満¹⁾、石黒 精³⁾

(¹⁾ 国立成育医療研究センター総合診療部、²⁾ 同 腎臓科・リウマチ・膠原病科、³⁾ 同 教育研修センター)

12歳女児。治療抵抗性の起立性調節障害として当院を紹介され、受診した。朝の起床困難や気分不良といった起立性調節障害の症状はあったものの、主訴は疲労感と全身性の疼痛であり、慢性疲労症候群の診断基準を満たした。同病名として治療方針を変更後は全身性の疼痛は改善傾向であった。易疲労感が目立つ起立性調節障害において、その治療に難渋する場合は、鑑別診断として慢性疲労症候群を念頭に置くことが重要である。

○指定発言 永井 章 (国立成育医療研究センター 総合診療部)

感染症だより 15:40 - 15:55 (講演: 15分)

講師 森野 紗衣子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

共催セミナー 15:55 - 16:35 (講演: 40分)

「ワクチンに関連する小児感染症の話題」

座長 相澤 まどか (コトコトクリニック)

講師 大石 智洋 (川崎医科大学 臨床感染症学)

COVID-19の5類感染症移行後、小児において様々な感染症が再度流行している。そして、小児に接種するワクチンも本年度より、新たに定期接種として導入されている。最近話題となっているワクチンを中心に、ポストコロナにおけるワクチンと関連する小児の感染症につき、その現況や今後の課題など、本講演にて概説する。

共催：田辺三菱製薬株式会社

* * 休 憩 16:35 - 16:45 * *

教育講演 16:45 - 17:50 (講演: 60分 + 質疑応答: 5分) 専門医共通講習1単位

「診療報酬制度 update ～2024年度診療報酬制度改定を中心に～」

座長 水野 克己 (昭和大学医学部小児科学講座)

講師 西田 俊彦 (株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン)

少子化の進行とワクチンの普及、そして2020年来の新型コロナウイルス感染症に対する社会的感染予防行動による感染症全般の激減により、小児の医療需要は減少、新型コロナウイルス感染症が減った現在も以前の状況には戻っていません。2023年には診療報酬上のコロナ特例や公費補助が中止となり、さらに医師働き方改革も重なるというタイミングで、2024年度診療報酬改定を迎えました。今回の改定を小児科の視点で、一緒に紐解いてみましょう。

演題募集中!

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpedstokyo.com/>



◆ 2024 年度講話会及び年間行事予定 ◆

■ 講話会予定

講話会	日程	会場	備考
第 701 回	2024 年 10 月 12 日 (土)	アットビジネスセンター八重洲通 (会場開催のみ)	
第 702 回	2024 年 12 月 14 日 (土)		
第 703 回	2025 年 1 月 11 日 (土)		
第 704 回	2025 年 2 月 8 日 (土)		第 2 回幹事会
第 705 回	2025 年 3 月 8 日 (土)		

* 4, 5, 8, 11 月は休会

■ 小児診療初期対応 (JPLS) 開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応 (Japan Pediatric Life Support : JPLS) を年間 4 回開催します。

取得単位：小児科専門医 (新制度) 更新単位 iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会場	申込開始時期
2024 年 12 月 7 日 (土)	日本大学	2024 年 8 月 7 日より申込開始
2024 年 12 月 8 日 (日)	日本大学	申込締切：9 月 8 日 (定員 12 名)
2025 年 2 月 1 日 (土)	国立成育医療研究センター	2024 年 10 月上旬開始予定
2025 年 2 月 2 日 (日)	国立成育医療研究センター	2024 年 10 月上旬開始予定

申し込み先：日本小児科学会 HP

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

■ 第 49 回東日本小児科学会のご案内

テーマ：小児科学の本質と魅力

会 長：浜松医科大学 宮入烈先生

日 程：令和 6 年 11 月 23 日 (土・祝)

会 場：えんてつホール (オンデマンド配信あり)

U R L：<https://eastjp49.jp/>

【主幹校 (会長校)】昭和大学医学部小児科

【運営事務局】日本大学医学部小児科

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>



◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【2024 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となります。

年会費納入のお知らせを 2024 年 4 月 1 日にメールおよびホームページにてご案内しております。

3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

* 会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と 年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認お願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。